

**地域における利尻山の位置づけ・利尻山の認識など**

**利尻山は利尻島のシンボル**

- まちづくり・地域づくりを考える上での中心となる山
- 利尻島のメインの景観、さまざまな恵みをもたらす宝の山
- 荒廃を防ぎ、できる限り登山利用を続けたい

地域の人がどれだけ利尻山に関心を持ち、現状を知っているだろうか？

**利尻山を取り巻く地域の現状**

**人口減少・少子高齢化**

- 思うように山、登山道の保全に力を注ぎきれない

**利尻山及び登山道の変化・現状**

**かつては歩きやすい山だった**

- かつては登山靴がいらないくらい歩きやすい登山道
- 15年ほど前を境に急激に登山者数が増加し、登山道の浸食が急速に進行
- 特に山頂周辺の状況は劇的に変化、現在の山頂もいつまで「山頂」として利用できるか…
- 人が滞留する場所での植生の消失に対する懸念

**登山者の実態・地域経済への影響**

**登山者数約1万人**

- 1万人が上限
- 立地や利用時期を考えると多い？

**思いつき登山者が問題**

- 島に来てから思い立って登ろうとする人がトラブルを起こしやすく、登山マナーにも問題あり
- 登山を目的に島に来る人の多くは、事前に情報を収集し、足慣らしをし、装備も問題なし

**登山者の行動パターンはさまざま**

- 礼文島や他の山とセットでの利尻山登山
- 利尻島での宿泊は2泊が主流

**休憩時に植生にダメージを与える行動がみられる**

- 写真撮影のための立ち入り、足を植生の上に投げ出す、植生の上に座る など

**登山者は入込みが大きく増減せず、宿泊もする安定した観光客**

- 利尻島の宿泊客数に占める登山者の割合が20%程度で、固定的に見込める宿泊客と考えると経済効果は高い
- 1万人の登山者(宿泊観光客)がそのままいなくなるのは経済的影響が大きい

**これまでの取り組みの現状・課題**

**利尻山登山道等維持管理連絡協議会の発足がきっかけ**

- 協議会発足後、両町が協力して登山道の維持補修
- 地域が利尻山を考えるきっかけになっている

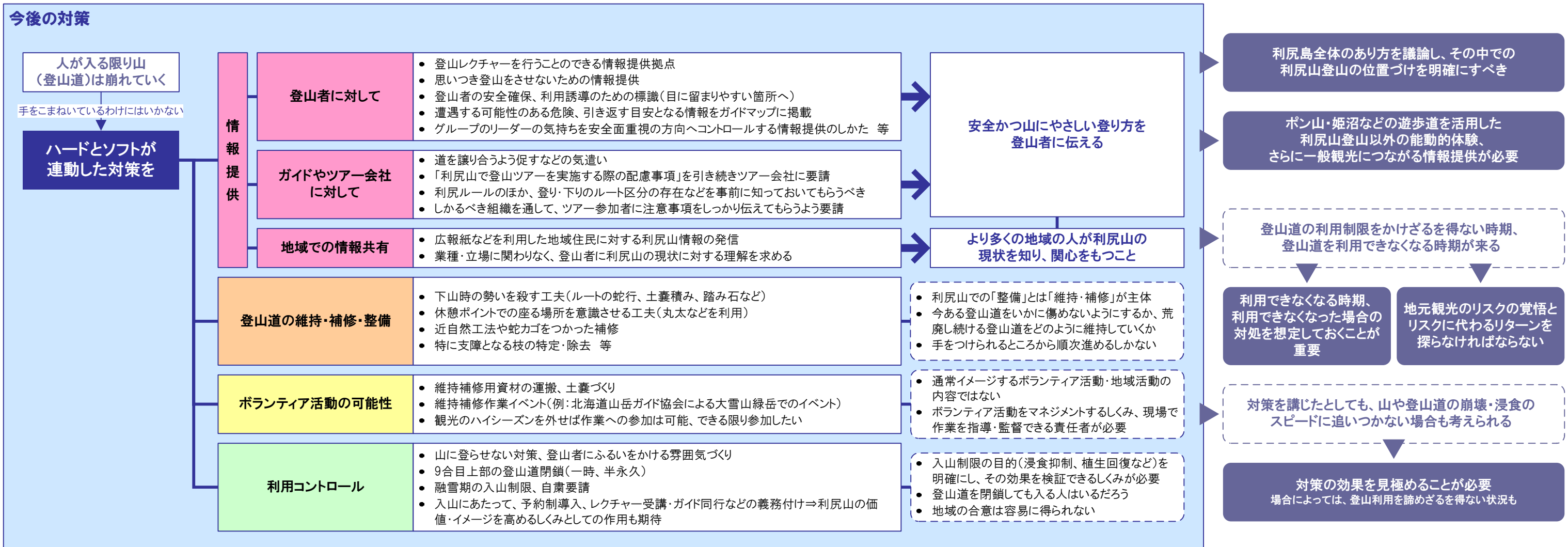
**登山道維持補修作業を地域だけで継続していくのは困難な状況**

- 登山だけでも大変な上、資材などを担ぎ上げ、さらに作業をしなければならない
- 観光のハイシーズンに重なると、観光業に携わっている人の参加は難しい

**携帯トイレ・利尻ルールなどの取り組みは一定の成果**

- 山の環境が改善されたこと、登山者にも大切にされていることを実感
- 今後も取り組みを継続し、山にやさしい登山を意識してもらう

**宿泊施設によって登山に関する情報量・提供方法にばらつき**



## ヒアリング結果

### ヒアリング内容・対象

#### ▼主に関係機関（利尻町・利尻富士町）

- 地域における利尻山の位置づけ（産業・まちづくり、地域の思い）
- 利尻山登山利用者の行動形態（滞在期間、登山以外の活動等）、島内での消費性向
- 利尻山登山者にかかわるトラブルの発生状況（遭難、事故、地域住民との軋轢等）
- 利尻山登山に関して、地域で課題・問題点として認識していること
- 利尻山登山利用の抱える課題・問題点に対し、地域で取り組んでいる対策と効果
- 利尻山登山利用の適正化に関して、今後地域でできる取り組みの可能性（参画のしかた）
- 利尻登山はどうあるべきか、そのためには何をすべきか
- 登山利用の制限を行った場合に想定される影響

#### ▼主に地域関係者（島内宿泊業者、山岳ガイド、島内登山愛好家 等）

- 利尻山登山者がもたらす経済効果と地域経済・収入に占める重要性
- 利尻山登山者の傾向・特徴・ニーズ等
- 利尻山の自然環境・登山道の変化と今後の予測（過去と現在を比較して、このままの利用を続けた場合に想定される状況）
- 利尻山登山利用における課題・問題点、有効と考えられる対策、実施できる対策
- 利尻登山道保護のためにできるボランティア活動の可能性
- 利尻登山はどうあるべきか、そのためには何をすべきか
- 登山利用の制限を行った場合に想定される影響

### ヒアリング結果

#### 地域における利尻山の位置づけ・利尻山の認識など

- 利尻山は利尻のシンボルである。利尻山を中心としたまちづくり・地域づくりを考えている。[地元町]
- シンボルである利尻山を守り続けながら、登山利用も可能な限り継続していきたい。[地元町]
- 利尻山は登らなくてもおもしろい山だと思う。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 5月～6月のヤムナイ沢で雪の上に岩や石が落ちているのを見て、利尻山は崩れる山である、と感じた。[宿泊業者]
- 利尻山は大切なもので、山が荒れている、荒廃を止めたいという思いは地域の共通認識だと思う。[宿泊業者]
- 利尻山は利尻島のメインの景観で、町の間人も宝の山であると言う。海産物への栄養供給、百名水、温泉といった恵みにもつながっている。[宿泊業者]
- 利尻島の一番の魅力は利尻山であると感じており、登山者が宿泊してくれるのはうれしい。[宿

泊業者]

- 地域の人にどの程度利尻山の現状が理解されているか、認識されているかは不明である。利尻のシンボルである、という認識はあるだろうが、どのように自分たちの暮らしと結びついているのか、という認識には至っていないのではないか。[地元町]
- 行政として地域の人に訴えかける取り組みが行われているとは言い難い状況である。[地元町]
- 登山以外にも、伏流水として湧き出す水の供給など、利尻山の恵みを直接的・間接的に受けている。地域として、そのことをもっと感じるべき。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 利尻山に対して島民がもっと興味を持つべきである。[地元登山ガイド・自然ガイド]

## 利尻山を取り巻く地域の現状

---

- 人口減少、少子高齢化という地域の条件もあり、地域自体を支える余裕もない中で、山をどのように支えられるのか。できる限りのことをするしかない。[地元町]
- 地域でも「利尻山登山道等維持管理連絡協議会」を通して登山道の維持補修に関わっているが、少子高齢化が進み、地元から登山道に労力を充分に向けることができない。特に宿泊業者や観光業者は、繁忙期に登山道維持補修作業の時間を取るのには難しい。[宿泊業者]
- 利尻町観光協会で、利尻山をテーマとした地域のイベントなどの企画は行われていない。[宿泊業者]
- 島内では、登山以外のアクティビティーはさほどされていない。これは、情報提供があまり行われていないことにもよる。[地元町]

## 利尻山及び登山道の変化・現状

---

- 約 30 年前は合流点付近も歩きやすかった。樹林帯の中の登山道も乾燥していて、石の露出も少なく、歩きやすい道だった。ガレ場のトラバースも非常に安定していた。合流点直下もお花畑の中を歩くような雰囲気であった。[地元町]
- 小学生時代、学校の先生に連れられてご来光を拝むために夜間沓形コースから登ったことがあるが、その時は登山中に危険を感じるようなことはなかった。[宿泊業者]
- 昭和 42 年頃利尻山に初めて登ったが、その当時 3m スリットなどはなかった。その後掘れ始めて、掘れたところは避けて山側を登っていた。3m スリット下部も荒れていなかった。当時は裸足でも歩こうと思えば歩くことができた。[宿泊業者]
- 登山道が浸食される前は、9 合目から休養林まで 1 時間で下りることができた。当時の体力を勘案しても歩きやすかったからできた。現在はどんなに急いでも最低 2 時間半はかかる。[宿泊業者]
- 登山ブームが訪れる前の登山道は非常に良い道で、登山靴はいらなかった。[島内登山愛好家]
- 昔はローソク岩までシャクナゲが生えていた。[島内登山愛好家]
- 雨が続かなければ粘土質の箇所も気にならなかったように思う。[宿泊業者]
- 15 年ほど前から登山道の浸食が目立ち始め、合流点付近の表土がなくなりスコリアが露出してき

た。フェリーの大型化・増便によって、島外からの観光客・登山者が増加した時期と重なる。[地元町]

- 百名山ブームを境に登山道の荒廃が目立ち始めたように思う。[宿泊業者]
- 平成7年頃頂上部で発見された亀裂部分は数年後崩落した。5～6年でも急激な変化がみられる。[地元町]
- 登山道の崩壊・浸食が目立ち始めた頃から、環境省をはじめとする関係機関に対策を要請し、環境省による取り組みが始まるまでの間、登山道浸食の計測などを続けてきた。[地元町]
- 登山者が水たまりをよけることによって登山道の拡幅が進んでいる。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 親知らず子知らずの後の登り部分で危険を感じる。[宿泊業者]
- ストックの利用が登山道の浸食を速めていると以前から感じていた。[島内登山愛好家]
- 山頂付近は昔に比べ劇的に変化したと感じる。[宿泊業者]
- 山頂の浸食が進み、山頂神社が傾いて倒壊する可能性があったため、神社の足を継ぎ足したり(約50cm)、土台(約5cm)を作ったりした。今では土台の周りの浸食が進んでいる。[島内登山愛好家]
- 山頂付近の亀裂もあり、いつまで現在の山頂を「山頂」として利用できるか。現在より手前の部分を北峰とすることになるのだろうか。[宿泊業者]
- 混雑時にすれ違いができずに待機する箇所が2箇所ある。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 駕泊コース6合目では、休憩のために30～40人もの人が一度に滞留することもあり、周囲の草地に座る人も中にはいる。シュムシュノコギリソウなどが見られる箇所であるが、花が咲いていないと気がつかない。植生が失われていくのではないかと懸念している。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 3mスリットをはじめ、利尻山の登山ルートはまっすぐ登ろうとしすぎである。[島内登山愛好家]
- ジグザグに登るルートになっていれば、ここまで崩壊・浸食が起こることはなかったのかもしれない。[地元登山ガイド・自然ガイド]

## 登山者の実態

---

### ▼登山者数

- 30年ほど前の登山者数は現在の半分以上だったように思う。沓形コースを利用して、すれ違う人が1人いるかどうかであった。[地元町]
- 登山者数は現在の約1万人が上限だと思う。[地元町]
- 利尻山の立地や利用時期を考えると、年間1万人の利用は多いと思う。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- これまでの山の混み具合には異常を感じていた。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 平成15年以前の登山口への送迎時の混雑の様子を思い起こすと、当時は2万人以上の登山者がいたのではないかと感じる。[宿泊業者]

### ▼登山者の意識

- 普段から登山をしている人は、予め自分で情報収集をしてくる。利尻に来てから思い立って登山

する人がいろいろとトラブルを起こすことが多い。[宿泊業者]

- 登山を目的に訪れる人は事前に自分で山に関する情報を集めてくる。島に来てから安易な気持ちで登山しようと思ったような人は登山マナーそのものに問題があったり、トラブルを起こしたりする傾向がある。[地元町]
- 思いつきで登ろうとする人が多い。宿泊客で、何の準備もなく登ろうとする人に、登山靴をはじめとする各種装備をレンタルすることもある（今年だけで5人はいた）。[宿泊業者]
- 中高年の登山者は準備がしっかりしている、事前に足慣らしをしている、といった点から、ガイドとして安心して連れて行くことができる。逆に、若者や中年の思いつき登山者が一番怖い。[地元登山ガイド・自然ガイド]

#### ▼登山者の旅行行程・スケジュールなど

- 登山者1万人の行動パターンははっきりわからない。[地元町]
- 個人の登山者とツアー登山では大きく形態が異なる。ツアー登山の場合、2泊3日の行程が主で、礼文島とのセットや利尻山以外での登山とセット、というパターンが多いようである。[地元町]
- 個人客の場合の行動パターンは複雑である。余裕をもって、登山の前後2泊するパターンが主であるが、1泊（前泊+フェリー最終便）や日帰り（1便+最終便）もある。[地元町]
- 個人客の場合、登山だけを目的として訪れている人が多い。[地元町]
- 利尻山登山をする人は、礼文でハイキングをする人が多く、利尻、礼文それぞれの島で1泊ずつ、という旅行スタイルが多い。[宿泊業者]
- 礼文島とセットで来られる人が多い。利尻での宿泊はほとんど2泊である。登山前日の夜に利尻に入り、2日目に利尻山に登り、翌日の午前中利尻島を1周して、午後礼文島に移動する。[宿泊業者]
- 予備日をもってくる人は、天候が悪い場合は山麓で別のアクティビティーを楽しんで天候の回復を待って登山する人もいる。[地元町]
- かつてはキャンプ場に宿泊する登山者が多かったが、近年では、キャンプ場以外の宿泊施設に泊まる人も多くなった。[地元町]
- 田中屋では、ツアー登山が増えたことを受けて、シーズン中にガイドが常駐するようになった。
- 夏季の宿泊者は登山者が中心である。観光入込が減少している中、そのような傾向を感じることもなく、むしろ増えている。リピーターも多く、道外からでも年に2回来る人もけっこういる。[宿泊業者]

#### <杓形で宿泊する登山者の場合>

- 登山者は宿泊施設の部屋の質をあまり求めない傾向がある。[宿泊業者]
- 登山者は鴛泊コース往復がほとんどである。杓形コースを利用する場合は登りのみで中心で、杓形コースを往復する人はほとんどいない。[宿泊業者]
- 宿泊場所は登山口、下山口それぞれに確保しなければいけない、と考えてくる登山者が多く、ルート選択で宿泊地を決めているようである。[宿泊業者]
- 単独で来る人は登山経験の豊富な人が多い。[宿泊業者]
- グループで来る人のうち、1人は必ず経験があまりない人が含まれ、大人数であるほど、グループの中の技術などに差がある。[宿泊業者]
- 登山目的の宿泊客をみると、以前に比べ、登山者の年齢層は高くなっているように感じる。[宿

泊業者]

- 6月～7月前半は最大10人程度のグループ、7月後半は1～2人の少人数での利用が多い。[宿泊業者]
- 個人で来る登山者の宿泊は、駕泊と杓形で半々程度ではないか。[宿泊業者]
- 年による登山目的の宿泊者数の変動はあまりない。[宿泊業者]
- 夏季には登山目的の宿泊者が毎日いるが、1日に1～2人程度である。[宿泊業者]
- 本州からの利用者はツアー形態がほとんどである。道内客でツアー形態はあまりみられない。[宿泊業者]

#### ▼登山者の行動・印象など

- 山頂で休憩している時に、山頂辺縁の植生の上にザックを置いたり、腰かけたりしている人を見かける。中には石を辺縁にもっていき、石に腰かけて周辺の植生部分に足を投げ出したり、山頂の辺縁に腰かけて足を投げ出している人もいる。その結果その部分の植生が失われ、新たな浸食が始まってしまったり、陥没してしまったりする。[島内登山愛好家]
- ローソク岩の方の斜面に降りて行って花の写真を撮影する人もいる。ガイドも注意しているようだが。[島内登山愛好家]
- 休憩するときなどに植生のあるところに座る人を見かけることがある。ザックやお尻を汚したくない気持ちが無意識に出ているだけで、悪気はない。そっと耳元で注意すると、不機嫌になることもなく理解してもらえる。ガイドがついている場合は、注意をするようガイドに促すことにしている。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 3m スリットのあたりで「ここまで登ってきたけど、帰りはどうやって下りるの？」と話しながら登っていく状況を見かけることがある。ツアーで登山をしているとみんなが登っていくのを見て自分も登ろうとする意識が働いているのだろう。[宿泊業者]
- 若い人に多くみられるが、スコリア部分を勢いよく下りてくる。[島内登山愛好家]
- 骨折やねんざ、へり搬送など遭難の原因は石（浮石、石車）で、下りの5～7合目での発生がほとんどで、疲れ・他のことを考えるなど、気が緩むタイミングと重なる。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- レンタカーやお土産も含め、登山者が一番お金を使っていくようだ。[宿泊業者]
- 国立公園にある百名山の割には整備がなっていない、という人もいる。同じ登山客のグループの中でも、登山道に張り出した枝に頭をぶついたりして、少し枝を整理すればいいのに、という人がいる一方で、それは仕方がない、自分が気をつければいい、という人もいる。[宿泊業者]
- 石、枝を何とかしてほしい、と言う声が多い。「景色は最高、道は最低」と言われることもある。[地元登山ガイド・自然ガイド]

#### ▼その他

- 観光客や登山者と地域住民の間のトラブルはない。[地元町]
- 安易な装備で入山した登山者の遭難などで自治体が迷惑する。[地元町]
- 6月に登山目的で利尻を訪れ、山以外にも季節ごとの楽しみがあることを伝えておくと、その時期にまた訪れてくれることもある。登山をきっかけに来た客に秋のサケ釣りを紹介したところ、今では毎秋サケ釣りをしにくる人もいる。[地元登山ガイド・自然ガイド]

## 登山者が地域経済に及ぼす影響

---

- 宿泊施設を利用して前泊・後泊することを考えると登山者がもたらす経済効果は高い。[地元町]
- 登山以外の観光客を増やす対策を練ってはいるが、現段階で利尻山の利用制限をすることで1万人の登山客（観光客）がそのまま減るのは経済的影響が大きく、観光業者が納得しないだろう。[地元町]
- 昨年の実績では、利尻島全体の宿泊客は年間約8万人である。その中で約1万人が入山している。登山の前後に宿泊することを考えると、宿泊客の20%～25%は利尻山登山者という計算になる。観光入込数や宿泊客が減少している中で、固定的に20%以上の宿泊が見込めるのは非常に大きな要因である。[宿泊業者]
- たかだか1万人、という言い方もあるが、6～7月のツアー登山が年間登山者の70～80%を占めている状況で利用規制をかけた場合、地域経済への影響は無視できないように思う。[地元町]
- 登山者数は1万人前後であり変動がなく、安定した観光客とも言える。[地元町]
- 登山者は、入込が大きく増えることもないが、大きく減ることもない、観光客の中では安定した客層だと思う。[宿泊業者]
- 登山者の宿泊によって、島内の宿泊施設は潤っていると思う。[宿泊業者]
- 宿泊客のうち、登山者は年間100人程度で、登山客の宿泊が占める収入はそれほど大きくはない。[宿泊業者]
- 経済効果についてはこれまでタブー視されてきたが、今後は地域全体で徐々にでも考えていかなければいけない。[地元町]

## これまでの取り組みの現状・課題

---

### ▼登山道の維持・補修など

- 平成17年に利尻山登山道等維持管理連絡協議会が発足する前は、各町が単独で登山道の維持補修などを行っていた。利尻山登山道等維持管理連絡協議会発足後、両町が協力して登山道の維持補修を行っている。[地元町]
- 行政だけでなく、観光協会、商工会などの人も関わる「利尻山登山道等維持管理連絡協議会」を設立したことによって、地域の人が利尻山の現状を認識し、地域としてどのようにしていくべきかを考えるきっかけになっていると思う。[地元町]
- 杓形コースは、「利尻山杓形登山道安全対策計画書」を策定した上で、これからも利用をさせることとした。[地元町]
- 登山道の維持補修作業は、登山だけでも大変なのに、それから作業を行わなければならない、非常に大変である。役場職員が年2回作業を行っているが、職員の年齢などの関係から年々大変になっている。[地元町]
- 観光のハイシーズンと登山道の維持補修作業の時期が重なってしまい、観光業に携わっている人の作業の参加は難しい。地域の人だけで維持補修も含めた登山道整備を行うのは困難であるといえる。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 一緒に近自然工法の施工をしてみたところ、非常に大変な作業だと感じた。[島内登山愛好家]

#### ▼携帯トイレ・利尻ルールの周知など

- 利尻山登山道等維持管理連絡協議会発足後、携帯トイレ使用に関する普及・啓発と島内での購入システムの構築、情報共有・発信を行ってきた。これらの取り組みは効果を上げている。取り組みは始まったばかりといえる段階だが、今後も取り組みを継続することによって、ある程度の効果は期待している。[地元町]
- 混雑していた頃に比べると、携帯トイレやストックキャップの取り組みを通して、山のマナーが理解されるようになり、登山者が利尻山を大事にしてくれるようになったように感じている。様々なホームページから発信されている情報を集めてきて、意識されている結果だろうと思う。[宿泊業者]
- 斜里から来たお客さんに、他と比べて利尻山はきれいだ、と言われたこともある。汚れていないところを汚したくない、という心理が働くのかもしれない。[宿泊業者]
- 都会に近い他の山では、携帯トイレの回収システムがない。そのため、使用後の携帯トイレをもって、電車などに乗って家に帰る、というのはやはり抵抗を感じる、という話をよく聞く。利尻ではしっかりした回収システムがあり、トイレブースもきれいに利用されているため、全体的にきれいに保つことができているのかもしれない。[宿泊業者]
- 携帯トイレの普及によって、山の環境は非常に改善されてきていると実感している。[地元町]
- 「利尻ルール」を含む「利尻山で登山ツアーを実施する際の配慮事項」や登山情報を旅行業ツアー登山協議会、北海道アウトドア協会、登山関係雑誌等に発信し、それぞれ関係者への周知をお願いしている。平成 19 年から「利尻ルール」を地元宿泊業者に周知したが、それだけではなかなか情報が伝わらなかったことから、平成 20 年春から上記のような関連団体への情報発信を行うこととした。今後は毎シーズン前に情報提供を行っていく予定である。[地元町]
- 利尻山登山についての問い合わせがあった場合、登山そのものは日帰りを推奨しており、登山前後に宿泊するなど時間的に余裕を持ったスケジュールで立てるように、と案内している。余裕のないスケジュールで登山をすることも、少なからず山の荒廃につながっているのではないかと。時間的に急いでいる人が登ると崩しやすいはず。ゆっくりと、気を遣って登ってほしいという気持ちがある。[地元町]

#### ▼宿泊施設での情報提供など

- 悪天候の場合は、ムリしないでほしいとの思いから、駕泊コースの利用を奨めている。[宿泊業者]
- 登山に関する情報は、「速報利尻」など役場を通じて FAX などで取得している。その情報を宿泊している登山者に伝えている。役場から提供される情報に不足を感じることはない。[宿泊業者]
- 登山者を対象として登山前夜にミーティングを開き、危険の状況、注意事項、最新情報などを伝えるとともに、装備の確認などを行っている。[宿泊業者]
- 6 時間で山頂にたどり着かない場合、もしくは 4 時間で長官山にたどり着かない場合は、水が足りなくなったり、足が痛くなったりする可能性が高いため引き返したほうが安全、とアドバイスしている。[宿泊業者]
- なるべく消防などの世話にならないよう、宿泊者の中に登山者がいる場合は、万が一のトラブルの際に常に迎えに行くことができる体制をとっている。[宿泊業者]
- 宿泊施設によって、登山に関する情報量・提供の仕方にばらつきがある。[宿泊業者]



## ▼その他

- 「利尻山十六景」という取り組みが進められている。視点によって利尻山の見え方・表情が変化するということから、スタンプラリーを実施している。利尻山を意識してもらう取り組みが進められていると思う。[地元町]

## 今後の対策

---

### ▼基本的な考え方

- 利尻山登山を続ける限り、山の荒廃は避けられない。[地元町]
- 荒廃し続ける登山道をどのように維持していくかが最も大きな課題である。[地元町]
- 「山のトイレを考える会」の清掃登山や携帯トイレの普及活動と同じように、行政以外で活動が始まり、その活動を行政が支援するといった形で続けていくことができればよいと考えている。[地元町]
- 「整備」というと、大がかりなものをイメージしがちだが、利尻山でいう整備とは維持補修が主体であるはず。[地元町]
- 人が入っているうちは、どんなことをしても山は崩れていくと思うが、手をこまねいているわけにはいかない。登山道を維持補修しながら、山に優しい登山について登山者への情報提供を行い、また維持補修以上の整備が生じたら、その情報を登山者に提供し理解を得る、というように、ハードとソフトを連動させながら進めていくしかないのではないか。[地元町]
- 自然に起こる山の崩壊を無理に抑えようとするのは不自然なことである。山に人が登って崩れていくのも、ある意味自然なことだと思う。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 大事なものの優先順位が難しい。自然、登山者の安全、何を優先すべきか、非常に悩ましい。[地元登山ガイド・自然ガイド]

### ▼登山者に対する情報提供

- 利尻にはビジターセンターをはじめとする情報提供の拠点となる施設がない。一般観光の情報と合わせ、利尻山登山のレクチャーを行うことができるようになれば、状況が違ったものになるのではないかと。[地元町]
- 島に来てから安易な気持ちで登山しようとする決意をなくすような情報提供が必要であると感ずる。[地元町]
- 合流点から上部の登り下りのルート区分は、標識などでより明確に伝えるべきである。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- フリーの登山客も含め、安全に登る方法をいかに伝えていくかが重要と考える。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- ガイドマップにはいいところが主に載せられているが、遭遇する可能性のある危険や引き返す目安となる情報もあわせて掲載して伝えるべき。例えば、駕泊コース6合目（第一見晴台）を出たときに風が強いと感じたら、それより上はさらに厳しい状況です、など。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 危険を伝え注意を促すことによって、気象条件などによって引き返すことを促すことにつながる

のではないか。その結果、安全確保、人の立ち入りの数の抑制にもつながると思う。[地元登山ガイド・自然ガイド]

- 全般的に標識類が少ない。人の目に留まりやすい休憩ポイントや区切りのいい箇所に、事故を起こさないようにするための情報を表示した標識を増やすべきである。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- グループの人数が多ければ多いほど、リーダーは安全面重視の判断をする傾向があるため、リーダーの気持ちをコントロールするような情報提供が有効ではないか。[宿泊業者]
- 杓形コースについて聞かれることがあるが、聞いてくるのは概ねリーダー格の人である。基本的に杓形コースの利用はお勧めしないことにしている。様々なレベルの人がいるようなグループの場合、「あなた一人なら大丈夫だと思うけど、連れて行く人数を考えたら、、、」というようなアドバイスをすると、ほとんどの場合駕泊コースを利用する判断を下す。[宿泊業者]
- 迅速な事故処理対応はもちろん必要なことではあるが、事前の登山計画書の提出を徹底することも必要である。徹底するには、これも情報提供しかない。[地元町]

#### ▼ガイド、ツアー登山企画会社に対する要請など

- 大きなツアーにはガイドをしっかりつけるべきである。[宿泊業者]
- コースの状況にもよるが、ツアー登山の 20~30 人の団体全員が通過するまで数人の個人の登山客に道を譲らないなどの状況もあるようだ。ガイドやリーダーが自分のパーティーがバラバラにならないように、との意識が働いているのだろうが、道を譲りあうことを促すなどの気遣いがあれば状況は良くなると思う。[宿泊業者]
- 利尻山ではストックキャップを付けて登るよう啓発しているが、本州の山では「ストックキャップを付けてください」という注意が旅行会社から行われておらず、ストックキャップを付けて登る人は少ない。これは現地で案内するガイド次第であり、ガイド間のつながりの中で対処し、注意事項を伝達するようにしなければならない。[島内登山愛好家]
- 旅行業ツアー登山協議会などに対しお願いしている「利尻山で登山ツアーを実施する際の配慮事項」は強制力をもつものではなく、望ましい姿を提示し、配慮をお願いしているものである。しかし、ツアー会社は商売をしているため、採算が合うツアーを造成している。配慮事項に示した理想的な登山形態に近づけてもらうよう、これからもお願いしていくしかない。[地元町]
- 合流点から上部の登り下りのルート区分は、利尻ルールと同様、ツアーのガイドに事前に知っておいてもらうべき情報である。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 地元の 1 登山者が他の登山者やガイドに対して注意をした場合、理解してくれる人は多いとは思いますが、聞き入れてもらえなかったり、話がこじれてしまう可能性がある。登山者を連れているガイドから登山客に対して守るべき注意事項をしっかりと伝えてもらうよう、環境省からガイドに要請してもらった方が効果的ではないか。[島内登山愛好家]

#### ▼地域での情報共有

- 行政として地域の人に訴えかけるよう、より積極的に取り組んでいかなければいけないと考えている。[地元町]
- 島内では、利尻山に登ったことのない人の方が多い。地域の人に興味をもってもらうために、地元に対して利尻山に関する情報を発信していくことも重要と感じている。行政としてすぐに対応できることであり、隔週で発行している広報紙など利用して情報を発信していきたい。[地

元町]

- 宿泊業者、観光業者、行政に関わりなく、登山者に利尻山の現状に対する理解を求めることはできる。[宿泊業者]

#### ▼登山道の維持・補修・整備

- 今ある登山道をいかに傷めない登り方にするかが重要である。そのためにどうすればよいかを考えているが、それがわからないから困っている。[島内登山愛好家]
- 支障になる枝は切ってもいいと許可をもらっているが、屈んで通ることができる範囲であれば、テープなどを付けて注意してもらえばいいように思う。標識などを設置して、そういう場所であると意識させる、ということも考えられる。[宿泊業者]
- 登山道の修復は、手をつけられる箇所から始めて、少しずつ延ばしていくしかない。[島内登山愛好家]
- 根本的に登山道の浸食を止めるには、まず人を歩かせないようにし、道路に草や木を入れるしかない。別の登山道を作っても、新しく崩れるところを作ることになり、同じ状況が起こるだろう。[島内登山愛好家]
- 登山道の凹部の水を抜くことからしなければならない。[島内登山愛好家]
- 合流点上部などは、幅を活かして七曲り状のルートにしてはどうか。まっすぐ登るルートは他の山ではあまり見られない。ルートがまっすぐであることが、水を流れやすくしているのではないか。[島内登山愛好家]
- 勢いよく下りてくる結果、スコリアが下に流れてしまうことになる。下りてくるときの勢いを殺すように、ルートを蛇行させながら、階段状に土嚢を積みばいいのではないか。[島内登山愛好家]
- 火山灰の中に踏み石となる石を埋めるだけで下るときの勢いを殺すことができ、崩壊が多少なりとも抑えられ、歩きやすくなるのではないか。[島内登山愛好家]
- 土嚢は1年ほどで擦り切れてしまうという耐久性の問題が取り上げられていたが、じゅうたんを土嚢の上に敷き、土嚢袋を直接踏まないように工夫するだけでも耐久性はある程度増すのではないか。[島内登山愛好家]
- 蛇カゴを入れている箇所は、機能している印象を受ける。危険箇所に2、3個設置するだけでも効果があるのではないか。[島内登山愛好家]
- 土の箇所では鉄筋や杭を利用した修復方法があるが、火山灰質の箇所ではそういった方法は難しい。[島内登山愛好家]
- 1回の登山道維持補修作業でできる箇所は限られてしまう。人が多ければ多いほど作業を進めることができるはず。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 登山道整備はハイシーズンの後に実施すべきである。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 登山道に張り出している枝は、自然環境のことを考えると極力切りたくないと思うが、ガイドの立場から安全利用を考えると、切らなければいけないと思う枝もある。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- ガイドをしながら登っていると、登山者の身長にもよるが、頭をぶつける枝はだいたい決まっている。そういう枝だけでも切ることができないか。また、足を滑らせる場所も概ね決まっている。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 鴛泊コース4~5合目の樹林帯を抜けたあたりでは、雨が降ると川のように水が流れる。近自然

工法などを施してはどうか。[地元登山ガイド・自然ガイド]

- 休憩ポイントの植生を守るために、予め丸太などを置いて座る場所を意識させることによって、踏みつけ行為が減るのではないか。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 崩落しそうな箇所、お花畑などで、ルートをつけ替えることによって、結果的に守られる植生などの面積が広がるのであれば、ルートの付け替えも選択肢の 1 つになるようにも感じる。[地元登山ガイド・自然ガイド]

#### ▼ボランティア活動の可能性

- 登山道の維持補修作業は、通常イメージするボランティア活動や地域活動で行える内容とは考えられない。[地元町]
- 島外からのボランティア参加を呼びかけることも必要であるが、ボランティア活動をマネジメントする人や施設として、利尻島内に自然保護官事務所やビジターセンターがあるべき。そうしなければ、地域の担い手は作れないと思う。[地元町]
- 避難小屋までの麻袋の運搬など、登山道の維持補修への協力を要請できないか模索し、来年にはどのようなことがお願いできるかルール化したいと考えている。登山者にはお願いの主旨を理解してもらえれば協力してもらえらると思う。[宿泊業者]
- 長官山の避難小屋までの整備資材の担ぎ上げなど、登山者へ協力を要請することはできるのではないか。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- ボランティア活動を行うには、ボランティアで参加した人に何をどうしてほしいか、具体的に方向性を示さなければならない。それがなければボランティアで参加した人も戸惑ってしまう。逆に、ボランティア参加者が勝手に作業をして、状況を悪くしてしまう可能性もある。作業内容を指導できる現場責任者がいて、その周りで作業をするようなイメージではないか。[島内登山愛好家]
- 土嚢づくりであれば、現場責任者が土嚢を作る数量や積む場所などを指示しながら、火山灰を土嚢に詰めるなどの作業でボランティアの協力も得やすい。経費もあまりかからないのではないか。[島内登山愛好家]
- 観光のハイシーズンを外せば、ボランティアでの登山道維持補修作業への参加は可能だと思う。できる限り参加したいと思っている。[宿泊業者]
- 登山の日に合わせて、10月2日～3日に大雪山緑岳で、北海道山岳ガイド協会主催の木道用丸太運びのイベント(平成20年度北海道山岳ガイド協会「10月3日登山の日緑岳登山道木道設置施工事業」：北海道森林管理局上川中部森林管理署資材提供および宿泊費・弁当代負担)が行われる。山岳ガイドとして、山への恩返しの気持ちで実施される。参加者は50名以上(山岳ガイド+北海道エコ・コミュニケーション専門学校)の予定である。このようなイベントを利尻山で実施することができれば、通常の維持補修作業より格段に効率よく作業が進められる(下に落ちてきたスコリアを土嚢に詰めて上に運び上げる作業など)。他の山岳ガイドも利尻山の状況はよく知っており、このようなイベントを利尻山で実施することに理解を示してくれるのではないか。このようなイベントを利尻で行うとすれば、地元で登山をする人の中に宿泊施設関係者もいることから、宿泊業組合を通して格安で宿を提供するなどの協力はできると思う。[地元登山ガイド・自然ガイド]

## ▼利用コントロール

- 抜本的な対策として、山に登らせない対策を検討する必要があるようにも感じる。[地元町]
- 9合目上部は整備、入山規制などが必要ではないか。[宿泊業者]
- 9合目や三眺山・長官山より上部は、一時期でも半永久でも、閉鎖してもいいのではないか。ただし、期間を限定する／しないに関わらず、登山道を閉鎖するのであれば、閉鎖する目的を明確に示さなければいけない。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 融雪期（明確に定義するのは難しいが）の登山を自粛する、制限する、といった対策は有効ではないか。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 杓形コースにおいて、三眺山で登山道を閉鎖しても、先に入っていく人はいるだろう。[宿泊業者]
- 入山を制限することによって、山の浸食の抑制や植生の回復を図ろうとする場所とそうでない場所を区別して考えるべきではないか。[宿泊業者]
- 登山者に規制をかける、となると、容易にはいかないだろう。[地元町]
- 全ての登山者を登らせるのではなく、ある程度ふるいにかける雰囲気を作るべきではないか。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 期間や区間を限定した立ち入り制限・禁止をする（山を休ませる）ことによって、現状と比較してどの程度登山者によるインパクトの軽減や植生の回復等が図られるのか、効果を見てみたい気持ちはある。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 利尻山登山にあたって、予約制にする、利尻山に関するレクチャーの受講を義務づける、ガイド（利尻山専門、認定など）が同行しなければ登れないようにする、といったしくみも考えられるのではないか。このようなしくみを作ることで、利尻山の価値やイメージを高めることになり、その結果、一定の観光客が毎年見込めるのではないか。[地元登山ガイド・自然ガイド]

## ▼対策実施にあたっての懸念など

- 何年先になるかはわからないが、利用規制をかけざるを得ない時期が来るように感じている。[地元町]
- 登山道を維持し続けるという方針であったとしても、いつか現在の登山道を利用できなくなるだろうと考えている。現在の登山道が利用できなくなった場合にどうするか、ということが重要になってくるのではないか。利用できなくなる時期をどの程度先のことと考えるか。[地元町]
- 杓形コースは、安全対策計画を策定した上でこれからも利用をさせることとしたが、今後継続できるかどうか。[地元町]
- 利用適正化に関する取り組みを講じたとしても、その進捗が山や登山道の崩壊・浸食のスピードに追い付かない場合も考えられ、今後見極めていかなければいけない。[地元町]
- どこまでやるかによるが、対策がイタチごっこになってしまうようであれば、登山利用を諦める方がいいのかもしれないし、諦めざるを得ない状況になるかもしれない。[地元町]
- ハード・ソフト問わず、対策に多額なコストがかかるようであれば、地元自治体でどこまで対応できるか。[地元町]
- 地元自治体だけの取り組みには限界がある。ソフト対策は実施できても、ハード対策の実施は厳しい現状にある。ハード整備に関する部分、金額的な部分については、環境省に執行してもらいたい。[地元町]
- 原油高により、携帯トイレを400円で提供できなくなるかもしれない。ストックキャップの仕入

れ値も昨年に比べて100円上昇している。金額を上げると普及率が低下してしまい、登山道へ悪影響を及ぼすことになるのではないかと懸念している。ツアー登山であれば、利尻に来る前に参加者が各自携帯トイレを準備するよう、ツアー会社に徹底してもらうようなことも考えなければならない。[地元町]

#### ▼その他

- 登山道だけでなく利尻島全体がどうあるべきかを議論し、その上で利尻山登山の位置づけを明確にすべき。[地元町]
- 情報提供を行うことによって、利尻山登山以外のアクティビティ、一般的な観光につながっていくシステムを作っていけるのではないかと考えている。[地元町]
- 必要以上に山に人が入り込まないように、ポン山・姫沼などの遊歩道を活用して、利尻山を見ながら麓をトレッキングするなど、登山以外の利用形態にもっと目を向けてもらうような情報提供をしていかなければならない。[地元町]
- 長い目でみると、利尻山登山だけではない、利尻の別の目玉を考えるためのいいきっかけとなるかもしれない。[地元登山ガイド・自然ガイド]
- 「トトロのトンネル」という名前は非常に面白いと思う。駕泊コースでも杓形コースの「礼文岩」や「夜明かしの坂」のような愛称をパンフレットなどに記載したいと以前から考えている。[宿泊業者]
- 営利を目的に登山者に関わっている人にもある程度のリスクを覚悟してもらわないといけないと思う。一方で、リスクを背負った代わりのリターンについても、試行錯誤しながら探っていかなければならない。[地元町]